

- ✓ 新年のごあいさつ
- ✓ PSアワード2024  
経済産業大臣賞を受賞!
- ✓ 作業療法士からみた住宅改修
- ✓ 建築から見るデザイン紀行

## 謹賀新年2025

旧年中は格別のお引き立てを賜り  
誠にありがとうございました  
本年もよろしくお願いいたします



## 年賀ムービーを公開!

新年のごあいさつとして、マツ六Webサイトにてショートムービーを公開しています。ぜひご覧ください。  
※ショートムービーは1月1日からご覧いただけます。

▶▶▶ <https://www.mazroc.co.jp/>



## 第18回 製品安全対策優良企業表彰 (PSアワード)

中小企業 製造事業者・輸入事業者部門

# 経済産業大臣賞を受賞

マツ六は第14回(令和2年度)、第16回(令和4年度)に続く3度目の受賞であり、これを受けて「製品安全対策ゴールド企業」に認定されました。

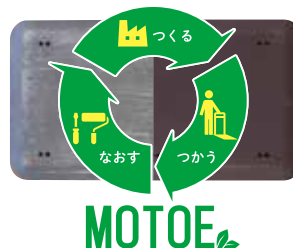


当社では令和2年度・令和4年度の同賞受賞後も製品安全の向上に努め、今回は以下「受賞のポイント」に挙げる項目を特にご評価いただきました。今後もこれまでの取組みを維持しつつ、ゴールド企業として更なる製品安全の向上を目指し、お客様に当社製品を安心・安全にご使用いただけるよう、社員一同尽力して参ります。

## 受賞のポイント

### モトエプロジェクトによる製品安全とサーキュラーエコノミーの両立

再生可能な製品を回収し、部品交換や再塗装などによる補修を行い、検査によって安全性が確認できたものを再利用に供するという「モトエプロジェクト」を積極的に推進している。補修過程では製品の劣化傾向を分析し、新規生産品において設計変更を行うなど、製品改良にもつなげている。これらの活動により、製品安全とサーキュラーエコノミーの両立を実現している。



### 製品安全に関する情報の一元管理の継続的な推進

製品の設計から生産、梱包、顧客からの問い合わせやクレーム情報までに至るあらゆる情報を商品情報データベースに一元的に集約し、検索性を持たせることで、新規開発品における不具合の再発防止や、万一の事故発生時における同様の事例の発生状況の確認などを可能とする仕組みを継続的に推進している。

### 多様なステークホルダーと連携した製品安全文化の構築

製品を利用する介護事業者に向けた定期的な講習会や、施工業者に向けた誤施工防止の研修会、製品事故実態の把握に向けた産学官での共同研究、高齢者の多い自治体における誤使用防止を呼び掛けるイベントへの参加、SNSを活用した双方向のコミュニケーションなどを通じ、自社を取り巻く多様なステークホルダーと連携し、製品安全文化の構築に向けた活動を行っている。





## 認知機能は転倒と関連。 転倒予防は社会参加の維持・継続から！

我が国における軽度認知障害(MCI)を有する高齢者数は急速に増加し、今年2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると推計されています。軽度認知障害(MCI)の方は、認知機能が正常な高齢者と比べて転倒リスクが増加します。記憶障害がなく遂行機能障害がある非健忘性MCIの方でも転倒リスクが増加していることから、遂行機能障害が転倒リスクを増大させていることが知られています<sup>1)</sup>。

認知症における疾患別の転倒発生率は、アルツハイマー型認知症47%、血管性認知症47%、レビー小体型認知症77%、認知症を伴うパーキンソン病90%とされています。認知症のある人は、ない人と比べ、転倒による骨折、特に大腿骨頸部骨折が多く、骨折による入院のリスクが高く、在院日数も長く、死亡率も高いことが明らかにされています<sup>1)</sup>。

アルツハイマー型認知症では、ファンクショナル・リーチ・テスト(FRT)や片脚立位時間の測定などから、バランス機能が早期から低下し、認知機能の低下に伴って歩行能力・筋力が低下するとされています。MCIでは歩行速度の低下、歩行のばらつきが増大、バランス機能の低下が知られています。MCI・アルツハイマー型認知症でのサルコペニアの有病率は、12.5%、23.3%と、認知機能正常者の8.6%に比べると高いことが示されています<sup>1)</sup>。

これらから、認知機能障害は転倒の危険因子となっていることがわかります。転倒を予防するには、MCIなど認知機能の変化や低下や歩行速度の低

下がみられた場合に、転倒予防の取り組みを始める必要があります。

その取り組みとしては、手すりの設置や段差の解消などの環境因子を調整することが挙げられます。

また、高齢者の主観的認知感の維持に、高齢者のゴミ出しを近隣の高齢者が手伝うなどの生活支援の実施が影響を与え<sup>2)</sup>、高齢者の主観的幸福感の維持には自治会への加入意欲、社会参加していることが影響<sup>3)</sup>するのが分かっています。更に、通いの場に参加する地域高齢者は、外出行動(図1)が自己効力感を向上させ、フレイルを予防することが示されています<sup>4)</sup>。

これらを踏まえると、高齢期における社会参加の機会を持つことが認知機能の維持につながり、結果的に転倒の予防となることが推測できます。



図1)高齢者の外出

### 参考文献

- 1) 杉本大貴・軽度認知障害および認知症における転倒の実態:疫学データ,日本転倒予防学会誌, 10, 37-43, 2023
- 2) 土谷瑠夏, 田口敦子, 大森純子, 村山洋史:地域在住高齢者の生活支援の担い手となる意向および実施と主観的認知機能低下の関連,日本地域看護学会誌, 27(2), 14-22, 2024
- 3) 大杉紘徳, 安齋紗保理, 柴喜崇:高齢者の自治会への参加および社会参加と主観的幸福感との関連,ヘルスプロモーション理学療法研究, 12(3), 117-124, 2022
- 4) 木下貴文, 中川敬汰, 甲田宗嗣:地域高齢者における外出に対する自己効力感とフレイルとの関連性について:横断的観察研究,理学療法やまぐち, 2, 1-7, 2024

建築から見る

## デザイン紀行 5

～過去から現在そして未来へ～



Salone del mobile 2024 -part4-  
(イタリア・ミラノ)

今回のテーマは、収納。

ヨーロッパでは中世の建物を今もなお、住宅や商業施設として使いつづけています。

中世の頃から建物の大きな枠組みや外観はそのままに、中身(インフィル)は時代や、そこに住もう、または利用する人のライフスタイルに合わせ変化しつづけて、現在に至るまで受け継がれてきました。ヨーロッパの人々にとっては、既存建物の活用が習慣化されているのです。

近年の日本の建築市場においても新築着工戸数が減少しつづけて、既存建物・住宅の活用が次なるキーワードとなっていきます。

そこで参考にしたいのが、ヨーロッパのインテリア実例です。

ミラノサローネでも多く見られたのが、収納を活用したインテリアです。日本では、収納というと住宅設備の一部のような位置づけですが、イタリアでは収納は家具として捉えられています。インテリアは時代や住まう人の成長に合わせて変化しつづけるので、それに合わせて柔軟に対応していかなければいけません。



ミラノサローネで展示されていた収納は、空間の中心に配され、パーティションのように間仕切るものや、壁面を彩るものなど、日本ではあまり見かけないデザイン性の高いものがたくさんありました。

パーティションのように空間を間仕切る収納は、空間構成を自由自在に変化させることができ、壁を作らなくとも、新たな空間を生み出すことができます。

日本も思い返せば、襖や障子、押入れで空間を間仕切り、一つの空間を何通りもの用途として使用し、生活していました。昼は居間だった空間が、ちゃぶ台を出せばダイニングに。押入れから布団を取り出せば寝室。お正月などの親戚が集まるときは襖をあげ、大きな空間に。

これからの既存住宅の活用においても、間仕切る、仕舞うための「収納」がポイントとなっていきます。



未来を変える一歩を  
いっしょに。

たよれールシリーズ

MOTOE  
モトエプロジェクト

地球に優しい福祉用具の  
サーキュラーエコノミー。



福祉住環境  
コーディネーター 道

の答え：②引き分け戸

Information  
マツ六からのお知らせ

●12/28(土)～1/5(日)は年末年始休業とさせていただきます。

発行元: マツ六株式会社

〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺1丁目5番47号  
TEL 06-6774-2255 (代表) FAX 06-6774-2248

https://www.mazroc.co.jp/  
MAZROC 2501-1

